

国際シンポジウム 登壇者紹介



シンガポールにおける初等教育改革の進展 —政策から実践へ—
クリスティーン K. リー
Christine Kim-Eng Lee

シンガポール国立教育研究所 (NIE) カリキュラム・授業・学習学科長。世界授業研究学会会長。「協同学習における共同体実践」および「教師志向の組織的改善の形態としての授業研究」の二つの研究開発プログラムを通して、授業研究を学校に導入した。研究の関心領域は、教師の発達と学習、授業研究、協同学習、カリキュラムの実施と変化、カリキュラムと教師のリーダーシップ、カリキュラムと学校改革である。NIE 研究者との共編集書に *Globalization and the Singapore Curriculum: From Policy and Practice* was recently published by Springer がある。



情感教育における理論と実践への探索 —私の研究経歴や反省から—
朱小曼
Zhu Xiaoman

北京師範大学教育学教授。中国陶行知研究会会長。前中国国立教育科学研究所所長。前南京師範大学副学長。元モスクワ大学哲学科道徳教育客員学者。教育学博士。教育哲学、道徳教育、情感教育、教師教育を研究領域とする。1990 年代以降、中国教育界において、情感教育を提唱し、情感道徳教育の理論、および EQQ (本質志向) 教育を形成してきた。刊行論文は300以上におよび、主な研究論文として、『情感教育概説』、『情感と道徳性の理論』、『精神的成長に着目した教育：道徳と情感教育に関する検討』などがある。



日本の教育：国際的に生きる宝物
キャサリン・C・ルイス
Catherine Carol Lewis

ミルズ・カレッジ教授。世界授業研究学会副会長。日本の教育の研究の第一人者であり、米国教育省の連邦資金プロジェクトの研究主任として、教師と生徒の数学的知識に有意な影響を示した数学のリソース・キットを用いた授業研究の無作為化試験などの研究を主導している。著書 *Lesson Study Step-by-Step* (Heinemann, 2011) や *Educating Hearts and Minds* (Cambridge University Press, 1995)、およびウェブサイト www.lessonresearch.net。上のビデオ等を通して、多くの英語圏の人々に、授業研究と日本の教育を紹介してきた。



美術館教育における革新的思考
林曼麗
Lin Munlee

国立台北教育大学、芸術・造形設計学部教授。元国立故宮博物院院長。教育学博士 (芸術教育)。台北市立美術館館長、国家文化協会事務次長、国家文化芸術基金会取締役会長、国立故宮博物院副院長を歴任。MoNTUE (国立台北教育大学美術館) の計画と運営の任務を引き受け、東京芸術大学大学美術館、ルーブル美術館、その他海外の現代アーティストと協同し特別展を二回共催した。それ以来、MoNTUE は台湾の現代芸術教育の新時代の先導役として台湾の大学美術館発展の第一線にある。



ケアと学びを保障する園・学校づくり —女性教育研究者の視点から—
秋田喜代美
Kiyomi Akita

東京大学大学院教育学研究科教授。東京大学大学院教育学研究科副研究科長。日本保育学会会長。日本読書学会会長、世界授業研究学会副会長。教育学博士。日本学術会議 20-22 期会員。国立教育政策研究所評議員。文部科学省中央教育審議会委員。制度的保育・教育の場での、子どもと教師・保育者の学習と発達過程とその発達を支える社会文化的環境について解明することを研究テーマとしている。近著に『対話が生まれる教室』(編著、教育開発研究所)、『学びの心理学』(左右社)、『保幼小連携 育ち合うコミュニティ作りの挑戦』(編著、ぎょうせい) などがある。

学習院大学文学部教育学科 登壇者紹介

国際シンポジウム指定討論
佐藤 学



Manabu Sato
学習院大学教育学科教授
教育学博士。東京大学名誉教授。前日本教育学会会長。全米教育アカデミー会員。アメリカ教育学会名誉会員。世界教育学会創設理事。日本学術会議会員・第一部 (人文社会科学) 部長。主な著作に『教育方法学』(岩波書店) 『学校改革の哲学』(東京大学出版会) などがある。

挨拶・趣旨説明
諏訪 哲郎



Tetsuo Suwa
学習院大学教育学科主任
理学博士。主な著書・論文に『加速化するアジアの教育改革』(編著、東方書店 2005)、『中国、韓国における1990年以降の環境教育の展開』『環境教育』(18-1, 2008)、『沸騰する中国の教育改革』(編著、東方書店 2008) がある。

プレシンプ司会
山崎 準二



Junji Yamazaki
学習院大学教育学科教授
博士 (教育学)。前日本教師教育学会会長。主な著書・論文に『教師のライフコース研究』(単著、創風社 2002)、『教師の発達と力量形成』(単著、創風社 2012)、『教師という仕事・生き方 (第2版)』(編著、日本標準 2009)、『『考える教師』～省察・創造・実践する教師』(共編著、学文社 2012) がある。

挨拶・趣旨説明
嶋田 由美



Yumi Shimada
学習院大学教育学科教授
博士 (教育学)。主な著書・論文に『明治後半期『唱歌調』とは何か —その構造的特別性と生成に至る教育的背景—』(『音楽教育学』第39巻第1号)、『戦後の器楽教育の変遷 —昭和期の『笛』と『鍵盤ハーモニカ』の扱いを中心として—』(『音楽教育実践ジャーナル』Vol.7 No.2) がある。

国際シンポジウム司会
長沼 豊



Yutaka Naganuma
学習院大学教育学科教授
博士 (人間科学)。主な著書・論文に『実践に役立つボランティア学習の基礎理論』(大学図書出版、単著 2010)、『学校ボランティアコーディネーション』(筒井書房、編著 2009)、『新しいボランティア学習の創造』(ミネルヴァ書房、単著 2008)、『改訂 特別活動概論』(久美出版、編著 2009) がある。

プレシンプ登壇者紹介

教師の声を聴く —私の教育研究—

浅井 幸子

Sachiko Asai



東京大学大学院教育学研究科准教授。教育実践の歴史的な研究を専門とし、明治以降の小学校教育や幼稚園・保育所の保育について、教室における教師と子どもの関係や経験に関し、教師の語りやカリキュラムの編成に即して検討している。教師のキャリア形成にも関心がある。主な著書には『教師の語りと新教育』(東京大学出版会)、『保育と家庭教育の誕生』(共著、藤原書店) などがある。

学校改革におけるケアリング

北田 佳子

Yoshiko Kitada



埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター准教授。全国の小・中学校を訪問し、各学校の先生方と長期的に協同しながら、授業改革・学校改革を行っている。主な著書には『21世紀型学校教育への提言 —民主的學校と省察的教師』(共著、教育開発情報センター) や、『グローバル時代の学校教育』(共著、三恵社)、『学校を変えるカー—イースト・ハーレムの小さな挑戦』(翻訳、デボラ・マイヤー著、岩波書店) などがある。

漢字教育における和語の活用

李 軍

Jun Li



学習院大学非常勤講師。早稲田大学非常勤講師。元早稲田大学教育・総合科学学術院助手。中国・瀋陽市出身。12歳から日本語を習い始め、中国では8年間日本語教師を勤めた後、2003年に来日。修士課程、博士課程を経て、2013年3月に早稲田大学にて博士号 (教育学) を取得。専攻は国語科教育学。漢字・語彙指導を中心とする国語教育の日中比較研究に取り組んでいる。

韓国における環境科目開設の経緯とその後の展開

元鍾 彬

Jong bin Won



学習院大学非常勤講師。東京女子大学非常勤講師。秋草学園短期大学非常勤講師。日中韓環境教育協会のコーディネーターや日韓通訳担当。前日中韓環境教育ネットワーク (TEEN) 委員 (日本側)。農学博士 (環境教育学専攻)。2005年から日韓干潟調査団の文化調査班メンバーの活動。日韓環境教育や環境NGOのコーディネーター、交流通訳などを行っている。